

大会競技規則

1. 最新年度「公認野球規則」並びに全日本軟式野球連盟が発行する最新「競技者必携」及び「大会特別規則」を適用する。

大会特別規則

(出場資格及びチーム構成)

1. 大会出場資格は、特定非営利活動法人千葉県少年野球連盟（以下「法人」という）の構成会員（以下「チーム」という）であり、試合日程が学校行事等に関わらない事。地域に於いて最終日まで参加できるチームを選出する事。
2. 大会出場登録でのチーム構成は、成人者による代表者、監督、コーチ(2名)、スコアラー、介護員(保
護者2名以内、連盟ビブス着用)と選手9名以上20名(1・2年生を含んでもよい)以内とする。ベンチ入り指導者(監督・コーチ)は、認定指導者有資格者1名以上とする。(ただし新規加盟チームに於いては1年間の猶予を与えることとする)。 ※試合前のトス時(メンバー確認)に認定証の提出を求め確認する。
3. 出場チームは、この法人の定款、大会規則、大会特別規則を遵守すること。参加する1チームの部員数が8名以下(1・2年生を除く)のチーム同士の場合は連合を認める。
※連合は選手数が少ないチーム同士数チームでも可能とする。連合チームの中の1チームの部員数が9名を超えても連合していた他のチームの選手数が満たない場合はそのチームの選手登録は救済処置として認める。ただし地域理事の承認をえることとする。
4. 前項に違反した場合は、没収試合とし相手チームに勝利を与え、後日協議し処分を言い渡す。

(服装・用具)

1. 同一チームの監督・コーチ・選手は、統一されたユニホームまたは、所属チームのユニホーム・帽子・ストッキング(アンダーソックス着用)・アンダーシャツを着用すること。代表者・スコアラー・介護員の服装は、平服とし、帽子(所属チームの物)を着帽し、靴は運動靴またはアップシューズとする。
※ストッキングはアンダーソックス着用が分かること。
2. 背番号は、監督30番、コーチ28番・29番、主将10番、選手は0番～27番とする。スパイクシューズは、監督・コーチ・選手全員とも同色系とする。ただし連合チームの場合は所属チームのものとする。(金属歯のスパイクは禁止する)。
3. ヘルメットは、「JSBB」公認マーク入りで両側にイヤラップの付いたものを最低8個用意し、打者・次打者・走者・ベースコーチ・ボールボーイは必ず着帽すること。
4. 捕手(控え捕手も含む)は、マスク(SGマーク付き及びスロートガード付(一体化も可))・レガース・プロテクター・ヘルメット及びファールカップ(女子選手は除く)を着用する。
5. 投手の守備を除き、選手(打者・守備)の手袋およびリストバンドの使用は認める。
6. 使用球は、全日本軟式野球連盟公認球「J号球」とし、金属バットは「JSBB」公認マーク入りのものに限る。但し、破損(変形)・加工バットの使用は禁止する。

(抽選会・開会式)

1. 大会の出場チームは選手名簿を提出し、開催前に行われる監督会議・抽選会に指導者が出席すること。
2. 大会の開会式での選手宣誓は、組合せ抽選会での結果に基づき、出場する全チームの中から理事長(不在の場合は副理事長等)が、抽選番号クジを引いたチームの選手とする(基本的には主将)。
3. 大会開会式での各チームの集合時間は、開始時刻30分前までに受付を終了し、選手は指定された入場

行進場所に整列していること。

4. 各チームの入場行進順は、先頭が前年度優勝チーム次に準優勝チーム、続いて抽選番号の若番からプラカードを持つ者が先頭で、背の低い順に並んで行進する。
5. 大会に出場する選手は、開会式に参加するものとし、特別な理由がない限りこれに違反した場合は、試合に出場することが出来ないものとする。

(試合の集合時間・準備)

1. 第1試合のチームは、試合開始予定時刻 1 時間前までに集合し、指導責任者により受付を終了すること。第2試合以降も同様とする。
2. 試合中止の場合は、大会本部から連絡する。雨天による判断が困難な場合は、時間までに試合会場に集合し、大会本部の決定に従うこと。
3. メンバー表の提出は、第1試合は試合開始時刻の 30 分前、第2試合以降は 40 分前までに監督・主将が5部持参し、グラウンドルールや注意事項等を確認すること。
ただし特別な理由がない限り、上記の試合開始時刻 30 分または 40 分前までにメンバー表の提出がなかった場合は、監督のベンチ入りは認めないものとする。
4. ベンチは、抽選番号の若番が1塁側、後番が3塁側とする。攻守の先攻・後攻はメンバー表提出時にトスにより決定する。(トス時に両チームともベンチ入りの3名の指導者認定書を携帯すること)
5. 試合前のシートノックは、後攻のチームから開始し、時間は5分間とする。ただし前の試合の遅れまたは天候不安定等が生じた場合は、短縮または中止して試合を開始する。
6. シートノック時のユニホーム着用指導者は、シートノック及び選手からの返球の捕球及びブルペンでの投球練習の捕手を行うことは認める。ただし試合開始後はこれらの補助は認めない。
7. シートノックを行うノッカーにボール渡しをする選手は、ヘルメットを着帽のうえ前方からのトス渡しとする。試合中の球審へのボール渡しをするボールボーイも必ずヘルメットを着帽すること。
8. ベンチ入りの代表・監督・コーチ等の指導者が試合中にベンチを離れた場合は、退場したものとみなし再びベンチに戻ることは出来ない。ただし緊急を要する場合に限り認めることとする。

(試合時間等)

1. 大会の試合形式はトーナメント戦とし、1試合(1時間30分) 6回均等回で勝敗を争うこととするが、タイムゲームを最優先とする。1時間30分を超えた時は新しいイニングに入らずその時点の得点を持って勝敗を決する(同点の場合は特別延長戦ルールを適用する)。決勝戦も同様とする。
2. 得点差によるコールドゲームは、3回均等回終了後以降10点差以上及び4回均等回終了後以降7点差以上の時に適用する。決勝戦も同様とする。
3. 日没・降雨によるコールドゲームの適用は、4回均等回終了後適用する(同点の場合は抽選とする)。4回均等回終了前については、再試合とし後日の第1試合前に行う(決勝戦も同様とし、後日再試合)。日没・降雨の判断は、当該球場責任者・責任審判員が両チームの監督を招集し協議して決定する。
4. 上記2・3項における「4回均等回終了」については、4回表が終了した時点で後攻チームがリードの場合、4回均等回終了とみなしコールドゲームを適用する。
5. 1試合のタイム数の制限：6回で攻撃側3回、守備側3回、特別延長戦は1回につき各1回とする。守備時3人以上集まればタイム1回と見なす。

(試合)

1. 同一投手の投球回数は1試合4イニング(特別延長も含めて12アウト)とする。1日2試合ある場合は、2試合目については3イニング(9アウト)とする。(1日の合計7イニング21アウト)。
※高学年大会に於いては、投手は5・6年生とする。特例として4年生以下も認めるが、出来る限り5・6年生を起用すること。(4年生以下の投手の投球回数は1試合3イニング9アウトとする)。
2. 投手の変化球は禁止し、変化球に対してはボールを宣告する。再度繰り返した場合は、その投手は交

代させる。(その試合での再登板も認めない)

3. 打者走者及び走者は、走塁の時ベースコーチまたは選手に触れてはならない。その場合走塁補助と見なしアウトを宣告する。
4. 死球等により手当が必要とする場合には、臨時代走(コーティシーランナー)を認める。代走は打順前位の者(投手・捕手を除いても良い)。
5. 審判員に対するアペールは、監督と当該選手に限り認める。また選手交代を行うときは監督が球審に申告する。試合中のメガホンの使用は監督に限り認める。
6. 監督が投手と協議するときは、マウンドまで駆け足を励行すること。また選手への指示についても同様とする。但し、同一イニングに同様の行為を2回行なった場合は、投手を交代させる。
7. アウトを取る意思のない投手の塁への牽制・送球は遅延行為と見なし審判員はブークを宣言する。
8. 仮設球場等の場合は、球場責任者が球審と両チームの責任者に対してローカル・ルールの適用を説明し試合を行う。
9. 相手チームに対して悪質な抗議・野次等を行うチームには、当事者または代表・監督の退場を大会責任者・球場責任者・当該審判が退場を命じることが出来る。少年野球にふさわしい応援で望むこと。

(特別延長戦)

1. 6回終了後または1時間30分を超え、後攻の攻撃終了時で同点の場合は、特別規則を適用し、直ちに「特別延長戦」を実施すること。
2. 打者は前回の継続打者、走者は前回の最終打者が1塁として2塁・3塁の走者は順次前打者として1死満塁で1イニング行い、点数の多いチームを勝者とする。1回で勝者が決定しない場合はさらに継続打順で1イニングを行い、なおも勝者が決定しない場合は抽選とする。決勝戦も同様とする。
3. 特別延長戦中の降雨・日没については全て抽選とする(決勝戦も同様)。
4. 抽選方法は、球場責任者・責任審判員の指示に従う。
5. 特別延長戦での選手の交代は認める。ただし既に交代した選手の交代は認めない。

(附 記)

1. 試合会場(フィールド外を含む)に於いて、試合前の練習等での選手のバットの使用は禁止する。ただしベンチ入り後の指導者によるバットを使った守備ノックと選手のベンチ前での素振り(指導者立会いのもと)は認める。
2. 試合前のメンバー交換後、次試合の両チームの先発バッテリーのブルペンでの投球練習を認める。
3. ベンチ入り10分後にシートノックを開始する(時間の短縮を目指すため)。
4. 各会場に於いては、ベンチ内への組立椅子・机等の持込・使用は禁止する。なお試合終了後はグラウンド整備の手伝いとベンチ内の清掃を行うこととする。
5. 申告故意四球は野球規則(5.05(b)(1))の通り、継続採用とする。
本条文は2023年以降削除とする。但し、規則は継続採用。
- ~~5. 申告故意四球(いわゆる申告敬遠、野球規則5.05(b)(1))を採用する。運用方法は以下の通り。
(1)守備側：①申告は監督からに限る。②連続して行う場合、最初の通告時に申し出ることできる。
③カウントの途中からでも適用可とする。④申告後、その打者への投球数は加算しない。
(2)攻撃側：①当該打者は一旦必ず打者席に入る。
(3)審判：①球審はタイムをかけ打者に1塁を与える。~~

(審判規定)

1. この規定以外の必要事項は、審判員が大会責任者(ここでは球場責任者)と協議して決定する。

※以上の大会特別規則は2022年4月1日付で改訂